



浜家連ニュース

第167号

平成26年(2014)年7月1日発行

○発行 特定非営利活動法人 横浜市精神障害者家族連合会
〒222-0035 横浜市港北区鳥山町1752番地
障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール3階
電話 045(548)4816 FAX045(548)4836

巻頭言

病棟転換型居住系施設について

理事長 宮川玲子

精神科病院の病床を減らし、アパートやグループホーム・介護施設などの居住系施設に転換しようという政策が、厚生労働省の有識者会議で議論されていますが、それを巡って波紋が広がっています。

厚労省は2004年、入院中心医療政策を転換し、退院促進事業を進めたが思うように進みませんでした。というのは日本の病院はほとんどが民間経営なので、病床を減らすと経営が成り立たず、病院が潰れてしまうことと、退院後の受け皿となる住居と支援の不足があるようです。そこで出てきたのが、病床を居住系施設に転換してはという考えです。

この政策が急浮上した今、病院の中の居住系施設では退院したことになるが、病床の看板の架け替えにすぎない。障害者を特定の施設に收容し続けることは人権侵害と反対の声があがっており、6月26日には日比谷野音で全国集会が開かれました。

浜家連でも理事会などで討議をしていますが、賛否両論あり、家族会としては意見を1つにはまとめられない難しい問題です。

病院から外に出て生活することが理想ですが、実際に子供さんが長期入院している家族の方は、地域にあるグループホームは条件が厳しく、とても入れそうにない。だから病院の中にグループホームが出来たら有難い。医者も近くに居て安心だしと話しています。また 実際グループホームを運営している家族の方達は、入院していた人をいきなり引き受けるのは、とても大変だ。だから中間施設として必要

ではないかと言います。

しかしこの間、NHK、Eテレで、40年間も長期入院していた人が、津波による原発事故で福島の病院が閉鎖になり、入院中から症状が安定していたので、群馬県のグループホームに入居し、職員の支援を受けながら生活している様子を放送していました。料理や買い物の仕方を教わったり、切符の買い方を教わったり、一つ一つ新しいことを覚えていく事の新鮮さ、まるで浦島太郎のようだと語って

いました。父親の葬儀も知らせてもらえなかったが、やっとお墓参りに行く事が出来、会ってくれるか心配した弟にも会うことができたと言っていました。

この様子を見て地域で生活できるようになって良かったと思うと同時に、病院が閉鎖になれば退院出来なかったのかと思うと胸が痛みました。冤罪で長期間刑務所に収監されていた人や、ハンセン病で隔離された生活を送らなければならなかった人達と重なりました。人間らしい自由な生活を送ることはなにより大事なことです。もし病院の中に居住系施設を作るにしても、地域にできるための短期訓練施設とし病院の中にまた囲い込まないようにするべきだと思います。

厚労省の入院から地域へという方針のもと退院促進事業、訪問看護やアウトリーチ事業などが少しずつ実現されてきていますが、まだまだ遅れているのが実情です。もっと地域の受け皿に予算を付けて、社会的入院を無くして欲しいと思います。



27年度要望事項について

横浜市会議員団との懇談が進んでいます。6月11日(水)の民主党との懇談を皮切りに16日(月)に自由民主党、23日(月)日本共産党、30日(月)に公明党、7月31日(木)には未来を結ぶ会が行われます。各政党とも懇談時間が充分とは言えない時間ですが、浜家連の要望事項を聞いてもらう事になっています。市議員さんからは、要望事項を真摯に受け止めて、今後の予算要望につなげたいとお答えをいただきました。

各区の選出の市議員さんがいますので、機会あるごとに顔つなぎをして、日頃の思いを伝え



民主党谷田部
団長に手交

ておくことが要望に応じてもらう近道かもしれません。

7月18日(金)には、健康福祉局との懇談があります。時間は午前10時から2時間を予定しています。各部局の課長さん、係長さんが出席されますので、双方で充分話し合いが出来る予定です。横浜市とより良い関係を築いていくためにも横浜市から直接お話を聞けるので浜家連として活動していく大切な機会です。ご都合がつく方は、事務局へお申し出ください。

締め切り7月11日(金)(事務局 齊藤)

西区ハートの会へ募金を届けました。

4月23日(木)ケアホーム おきな草、福寿草に募金を届けました。和田町駅から歩いて30分ほどの特定非営利活動法人ケアホームのおきな草、福寿草に米倉理事長(当時)、田口さん、齊藤の3人で、浜家連の会員さんにご協力いただいて集まった募金をお届けしました。

福寿草の施設長櫻庭さんの貴重なお話を伺い、施設内を見学させていただきました。まず、桜庭さんの説明を聞き、障害者のために施設の夢を実現された意欲と強烈なパワーを感じました。又若い男性職員さんを含めてスタッフの方皆さんが笑顔で対応してくださりとても気持ちが良かったです。

入居されている方が高齢者で、寝たきりの



車いす人、一人では歩けない人と、普通の暮らしをするのに介護が必要な人ばかりでした。しかし建物は一部2階ですが、居室は風通しが良く、事務室の周りに部屋があることで、いつでも呼び出しのベルに対応できるようになっていました。

万一の対応のためにスプリンクラー、車いすでも、ベッドでもスロープを使って外に避難できるようになっているのはまさに至れり尽くせりの建物の構造でした。

近くのタバコ屋さんへ出かける人などいて、地域の方とも仲良くされているとのことでした。

まさに巻頭言で宮川新理事長が要っているような地域に根差した居住施設になっていると感じました。

(たちばな会 田口)

単会便り(たちばな会 例会報告から抜粋)

当事者を抱え、骨折で緊急入院して「学んだこと」
昨年、私は胸椎圧迫骨折をして近くの病院に緊急入院致しました。長女は発達障害、次女は統合失調症、病名の異なる娘と3人暮らしは楽ではありませんでした。万一私が病気にでもなって入院したらどうなるのか、考えないわけではありませんでしたが、「その時はその時・・・」と思い、今振り返ってみればやるべきことをやっていませんで

した。

健常者の家族がいないというのは大変なことだということを思い知りました。幸いなことに家族会の中に娘と親しい方が何人かいらしたことで、お世話になっているクリニックは十数年のお付き合いで、我家の事情をよく解かってくれたことがとても大きな力になりました。



訪問看護アウトリーチが1年以上続いていたので、娘たちの動揺も少なかったように思います。

一番心強かったのは、クリニックの院長先生が「後の事はこちらで何とかするから、お母さんは直ぐに入院しなさい。」と言ってくださったことです。院長のお言葉で入院しようと思えば、やっと入院することが出来ました。

その日の内に長女は留守宅で独り暮らし、次女は以前入院した病院へお預かり入院が出来たというお知らせを頂きました。何一つ出来ない私は、沢山の方々の手を煩わせて、ともかくもホッと一息つきました。

多くの人の見守りの中、長女の一人暮らしが始まりました。初めの内は鍵をかけて引きこもっていた長女も、日がたつにつれてデイケア、支援センターにも顔を出し、食事はコンビニで済ませ、自分なりの生活パターンを作っていたようです。次女は入院先のワーカーさんとも親しくさせていただいていたので、娘の様子を知る事も出来、必要な物は友人が届けてくださいました。

私自身はと言えば、他人の迷惑を省みず、方々にメー

社会復帰に向けて(のぞみ便り抜粋)

(会員 H.K.)

のぞみの家族会の第5回定期総会に先立って、講演をしていただきました。

・講師: 済生会横浜市東部病院 ソーシャルワーカー 高橋 さや子様

・演題: 「社会復帰に向けて」

- ①社会復帰って? …再度一般社会に参加。時間も勇気も 周りのサポートも必要。リハビリ、症状とうまく付き合いながら、自分らしく生活すること。
- ②制度体系から見た社会復帰の流れ…はじめからハードルを上げるのではなく、少しずつ階段を昇っていくイメージ。外出すること→デイケア→通所施設→一般就労→一人暮らしに向けて
- ③ストレングス・モデル…病気のあるなしにかかわらず、だれでも強みを持っている。それを引き出し、活用していくこと。「そんなことできるわけない」なんて言わずに。
- ④どのように本人を支えればいいのか? …本人は辛

ルを送信し、返信メールを読んでは痛みに耐え、きついリハビリを続けていました。家族会の方達も何人かお忙しい中面会に来てくださり、入院先のワーカーさんから、「あなたは不幸せな人だけど、幸せな人ね。」と言われました。

いつか高森先生がお話されたように、悪いところばかりに目を向けず、健康な部分を広げてゆくように心がけてゆきたいです。

入院中に介護保険申請の準備をすることも出来ました。現在、要支援2の認定を頂き、週1回、娘達も自立支援の方からそれぞれ週1回ヘルパーさんに来ていただいています。

クリニックのアウトリーチも続いています。全ては家族会に入会した時から少しずつ広がっていった人と人との絆が私たち家族を救ってくれました。

これからもいろいろあると覚悟していますが、「人様とのご縁を大切にしたい。」

これが痛い思いをした今の私の心境です。 S. S 記

い症状で苦しんだり、悩んでいたりするので、否定せずそのまま聞いてあげて、その真意を理解するよう努めましょう。生活の中で本人の役割を作る。その役割が果たせるように支え、できたときは感謝の言葉を伝えましょう。

⑤メッセージ…病気になったのは、家族のせいではありません。本人らしい生活が、人生が送れるように、できる範囲でサポートしてください。家族の方も無理をしないで、家族自身の時間を大切にしましょう。

(感想)

一般社会から離れて生活していたものが、再度一般社会に参加すること、このことが本人も家族もが望みであり、また悩みです。障害者雇用促進法で精神障害者の雇用が義務化され、そのため多くの支援が得られるようになってきたことはたいへん心強いことです。願わくは社会の偏見というハードルがなくなるよう、家族として努力したいと思います。わが家の長男は45歳、病歴14年になります。彼の気分の波とじょうずに、つき合っていきたいと思っています。

浜家連の動き

～6月の常任理事会から、開催方法が変わりました。～

今まで、常任理事全員が集まって会議をしていましたが、宮川新理事長の新体制の下、これからは、次のような形で 会議を進めて実行していくことになりました。

- 1 施策・アウトリーチ常任理事会
- 2 啓発・教育・相談常任理事会 の2つに分かれました。メンバーはそれぞれ9名ずつです。
それぞれ部会では理事の方から積極的に発言がされて、今までにない雰囲気でも議論が進みました。
きめ細かく議論をして方向を決めて理事会に諮り執行していくこととなります。

訂正とお詫び（6月号で午前10時からとお知らせしましたが変更になります。）

7月11日(金)の理事会は、午後1時からになりますので、よろしくご承知の上お集まりをお願いします。

イベントのお知らせ

フォーラム・研修会関係

§ 1 Bブロック精神保健福祉フォーラム

日 時 平成26年9月13日(土) 13:00～16:30

会 場 泉区民文化センター テアトルフォンテ

交 通 いずみの線いずみ中央駅下車 すぐ 参加費 無料

内 容 障害があっても地域で普通に暮らしたい～私たち抜きで私たちのことを決めないで～

1部 映画「ふるさとをください」

2部 講演 テーマ「障害をもったけれど 横浜に生まれてよかった」

講師 藤井 克徳 氏(内閣府障害者政策委員会委員長代理)



浜家連研修会について(第1回目は終了しています。) ※全研修会、参加申込みは不要。無料です

② 7月25日(金) 13:30～ 16:00

テーマ「精神科薬物治療 ― 精神科治療薬の依存・乱用を中心に」

講師:松本 俊彦先生(独法 国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所 薬物依存研究部室長)

③ 9月26日(金) 13:30～ 16:00

テーマ るえか式心理教室&リカバリー ～ここまでできる当事者のちから

講師:木村 尚美先生(ひだクリニック 副院長)及び当事者2名

④ 10月17日(金)13:30～ 16:00

テーマ 就労に関する諸問題について

講師 青柳 智夫氏(NPO法人 横浜市精神障がい者就労支援事業会 理事長)

⑤ 11月28日(金)13:30～ 16:00

テーマ 引きこもりや医療に繋がっていない人へのアウトリーチ

講師:内田太郎氏(横浜市青少年相談センター 所長)



編集後記 サッカーは残念でした。でもマナーの良さが評価されたのは嬉しいことです。

***ヤンセンファーマから「ゼプリオン」の調査結果報告書が来ています。詳細は事務局へお申し出ください。**